HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」113号
Issue Date	2002-07-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66370
Type	journal
File Information	yuin113.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ISSN 0917-3684

Hokkaido University Library Bulletin No.113 Jul. 2002

楡蔭

Yuin 北海道大学附属図書館報

目　次

研究者の「日記」
理学研究科教授　杉山　滋郎……1

お知らせ
・北分館に「マルチリンガル支援パソコン」を備えました …6
・新しい海外ILLサービス開始のお知らせ ……6
・歯学研究科で情報検索実習を開催……7
・医学部図書館の24時間開館について ……8
・医学部図書館メール配信サービスについて …9
・写真展示「写真で見る北海道大学の沿革」第1部…10
・本館でCNN internationalの視聴開始 …10
・附属図書館利用者講習会実施報告(平成13年度)…11

資料紹介
帝政ロシア地誌コレクションについて ……13
平成13年度特別図書購入費で購入した資料 …16
世界の主要日刊紙CD-ROMの運用開始 ……18
国内新聞データベースの提供 ……18
教官著作寄贈図書 ……19
図書館統計（平成13年度）……20
貸出頻度順リスト ……22
会議 ……24
各種委員会委員 ……25
人事往来 ……26
附属図書館本館・北分館・部局図書室の開館(室)時間…28

研究者の「日記」

理学研究科教授　杉山　滋郎

世の中には，「日記」を書くのが好きな人がごく少数ながらいるもので，もちろん，科学研究者とて例外ではない。ただし，ここでいう「日記」は，公開することを意図しないで書かれたものである。

堀健夫が若いころ書き綴った日記12冊も，そうした日記であった。その日記が今は「北大沿革資料室」（附属図書館4階「北方資料室」の一隅にある）に収蔵されている。ご遺族のご好意により本学に寄贈されたものである。

以下では，堀のその日記からごく一部を紹介しつつ，日記や書簡といった「私的文書」が図書館に収蔵されることの意義について考えてみたい。（日記からの引用は，現代の読者に読みやすいよう表記の一部を改めてある。また，［　］内は引用者の補いである。）

堀健夫は，1923（大正12）年に京都帝国大学理学部物理学科を卒業した。その後1928年に旅順工科大学に教授として着任し，つづいて1935年から北海道帝国大学理学部教授となる。戦後は二度にわたり低温科学研究所長も務めた。

そして1962年，関西学院大学に移る。

堀は，旅順工科大学に着任するに先立ち，ヨーロッパへ留学した。1926年3月に神戸港を出発，帰りはアメリカを経て1928年5月，日本に戻った。ヨーロッパでの主たる滞在地はデンマークの首都コペンハーゲンにあるボーア研究所であったが，そのほかに，ベルリンやテュービンゲンなどにも短期間滞在した。

2年間に及ぶその留学中，堀はほぼ毎日，日記を克明に書き続けた。

【科学史の貴重な資料】

日記の1926年7月9日のところに，こんな出来事が書き留められている。ベルリンに滞在中，工科大学の航空力学研究所を見学しようと，そこを訪れたときのことである。事前に先方と打ち合わせたところ，その日の午後に日本の田中舘愛橘らの一行も訪れるというので，それに時間を合わせて訪れた。ちなみに，田中舘愛橘とは，東京大学理学部で物理学を学んだ第一期生（東京大学が東京「帝国」大学になる前の時代）で，この年，数えで70歳。研究者としての現役はとっくに引退し，学界の大御所として科学行政面に関わる仕事で世界を駆けめぐっていた。

> 約束の3時半に航空力学研究所を訪問。30分ほど前に田中舘一行はもう来られたということで，すぐ参観の中に加わる。カルマン教授（ハンガリー；近く日本から招聘されて［日本に］行く）と握手。田中舘さんと握手。…「あっ，旅順工大ですか。それなら京大でしょう」とは田中舘の最初の言葉。ちょっと馬鹿にされたような気持ちがした。

「それなら」のところに下線を引いているあたり，堀の癪にさわった気持ちが滲み出ている。と同時に，この数行は，当時の東京帝国大学と京都帝国大学および「外地」の工科大学（非帝国大学），この三者の関係を如実に表わしてもいる。

このように，一研究者が個人的な感情をふと書き留めたわずか数行が，ときには，学界（教育界）の実情を照らし出す，またとない資料になりうるのである。

堀が滞在したボーア研究所には，彼より一足早く1923年から，理化学研究所の仁科芳雄が滞在しており，量子力学を主に理論面から研究していた。仁科はクライン－仁科の公式をまとめたあと，1928年に帰国する。そして1931年から理化学研究所に仁科研究室を構え，やがて朝永振一郎らも迎えて，量子力学を中心とする理論物理学の研究を続ける。

そんな仁科ではあるが，ヨーロッパ滞在中，いかに日本の社会，日本の科学界を嫌い，いかに日本に帰りたがっていなかったかが，堀の日記から明らかになる。堀は1927年4月28日のところに，ボーア研究所の一員ヴェルナーが語った言葉を書き留めている。

> Foreign fundを同一人に何年も続いて支出することはException中のexceptionで，仁科さんにこれ以上出すことは難しいんだが，それが中々仁科さんに言えない。［中略］仁科君自身のために言ったって，早く日本に帰って結婚でもするのが一番いいんだが，どうも仁科君が日本へ帰る気がないんだとすると困ったものだ。何とかして日本へ帰るようにする方法はないかな…。日本ではScienceの仕事をすることができないと仁科君は言うけれどほんとですか。そんなことはないでしょう…。

仁科という人物の目を通してではあるが，当時の日本の科学界の状況を窺わせてくれる情報である。

堀のこの日記は，1926～27年のヨーロッパ物理学界の動向をつぶさに記録した資料でもある。

当時のヨーロッパは物理学研究の中心地であり，なかでもボーア研究所では，現代物理学の二本柱の一つである量子力学が，ボーアらによって今まさに打ち立てられつつあった。堀は，そんな研究所で，水素スペクトルについての分光学実験を行う傍ら，定例のコロキウムにも出席した。そして，ボーア研究所を訪れてきたシュレディンガーやハイゼンベルクらのコロキウムでの報告や，ボーアを含む出席者の間でのディスカッションの模様を日記に書き留めている。

もちろん，コロキウムの一部始終が記録されているわけではない。彼に理解可能であった部分，彼が重要と思った部分しか書き留められていないので，この日記からボーア研究所でのコロキウムの内容を再現することはできない。しかし，他の資料とつきあわせれば，ボーアやハイゼンベルクらの思索のプロセスを再構成するための，貴重な資料になる可能性がある。

理論の形成プロセスとは別に，ボーア研究所の雰囲気や，そこに集う研究者たちの個性，研究スタイルを知る素材としても堀の日記は貴重である。たとえばボーア，および研究所の雰囲気について，こんな記述がある（1926年12月9日の箇所）。

> 部屋の壁を塗るのでお引っ越し。大仕事。Arbeit［仕事］の最中を引っ越すとは，いくら壁塗りだとて随分無茶な話。これだけはボーアさんの考えがちょっとわからぬ。何しろProf. Bohrはきれい好き。正月までに全部壁塗りを終わらせたいんだろうが，学問の見地からは少々解せぬ。…ヴェルナーはヴェルナーで，昨夜からオランダ行き。うまいこと引っ越しのトラブルを逃れて逃げていった。

【「アインシュタイン・ドーム」と名づけたのは】

堀の日記は，北大に関しても貴重な情報を提供してくれているようだ。

理学部本館の正面玄関を入ったところに，三階まで吹き抜けの階段がある。ご承知のように，そこは「アインシュタイン・ドーム」と呼ばれている。だが，「誰がいつ名づけたのか不明」（岩沢健蔵『北大歴史散歩』）とされている。しかし，堀の日記は，この点について一つの推測を可能にしてくれる。

ベルリン郊外ポツダムの天文台に，1924年，太陽観測用の塔望遠鏡を内蔵する塔状の建築物が完成した。塔望遠鏡とは，望遠鏡の鏡筒を塔内に固定し，塔上に置いた鏡を使って光を鏡筒部に送る，というタイプの望遠鏡である。塔下には分光器があって，高い分解能で太陽スペクトルが観測できるようになっていた。

一般相対性理論によると，強い重力場（太陽など質量の大きい天体）から放射される光は，そうでないときの光に比べ，ごくわずかだが赤のほうに変位する（波長が6100オングストロームの光では30ミリ・オングストロームほど波長が長くなる）はずである。実際にそのようなことが起きているかどうかを調べて，一般相対性理論を確かめようというのである。そんなことから，この塔は「アインシュタイン塔」と呼ばれた。（このアインシュタイン塔は，アインシュタインのユダヤ人仲間の建築家E・メンデルゾーンの処女作で，今日ではドイツ表現主義建築の代表作としても知られている。）

さて，堀はこのアインシュタイン塔を，1926年6月に訪れている。ポツダム天文台のグロトリアンに頼み，「更にアインスタインをひっつかまえ，ポツダムの研究室を見せて戴けないかと頼」（日記：1926年6月9日）んでのことである。日記の6月11日の箇所には，こんな記述がある。

> 塔はかつて写真で見ていたとおり面白い格

好をしている。独創的である。そして同時に実用的にできているというグロトリアン氏の話。［中略］塔の上から二回反射を受けて太陽なり星の光を地下室の分光器に持ってくることができるようになるのだ。［中略］塔に上がる。装置はツァイスの技師の考案になるものだそうだが実に実に巧く出来上がっている。［中略］すべてのアレンジメントが電気のボタン一つ押すことによって行なわれているところなどは，とても羨望の至りであった。

堀の京都帝国大学での師は，分光学を専門とする木村正路教授である。したがって，堀が，太陽光の分光学的観測をする「アインシュタイン塔」に興味を持ってそこを訪れ，その仕組みに感嘆するのは，ごく自然である。堀はさらに，ボーア研究所で分光学実験をやって帰国し，北海道帝国大学にも分光学を専門とする教授として1935年に着任する。

その堀が，理学部本館の吹き抜け階段を見て，そこを「アインシュタイン塔（ドーム）」と呼ぶというのは，いかにもありそうなことではなかろうか。吹き抜け構造と上部のドーム状の天井が「塔」に類似し，最上部の窓から入った外の光が1階までを照らすという設計が塔望遠鏡を思わせたことであろう。

堀は，日記中のあの日この日の記述からうかがえるように，アインシュタインを，科学者としても人間としても大いに敬慕していた。このことも，「アインシュタイン塔」と名づける気持ちを後押ししたであろう。

じつは，ポツダムのアインシュタイン塔にやや遅れて，東京三鷹の東京天文台（現在の国立天文台三鷹キャンパス）にも，「太陽分光写真儀室」という，高さ19メートルの塔状の建造物が完成した。本学の理学部本館が完成したのと同じ年，1930年のことである。ポツダムのと同じツァイス製の装置一式を導入してのもので，目的もポツダムと同じく，太陽スペクトルの観測を通して一般相対性理論を検証することであった。こちらは，「三鷹のアインシュタイン塔」と呼ばれるようになった。

塔内の光学系部分の据え付けが終わり観測が始まったのは1933年秋からで，翌34年に初めて試験観測の結果が報告された。したがって，堀が北大に着任した1935年ころには，日本の天文学界・物理学界で「アインシュタイン塔」が話題にのぼったであろう。その意味で，理学部本館の吹き抜け部分を，誰からともなくアインシュタイン・ドームと呼ぶようになる下地はあった。

しかしその場合でも，率先して積極的に「アインシュタイン・ドーム」と呼ぶ人物が誰かいたはずである。そうした人物としては，自らの専門分野・分光学との関係でアインシュタイン塔に関心をもち，さらに本場のアインシュタイン塔を実際に見たこともある堀健夫を除いては，いないのではなかろうか。

【何をなすべきか】

堀健夫の日記から，内外の科学史について，あるいは北大の歴史について，どのようなことが知りうるか，いくつかの例を示してきた。

堀は，なにも科学史を記録にとどめようと思って日々の出来事や感情を綴ったわけではない。ましてや，「北大の歴史」研究に裨益しようなどとは思いようもなかったはずである。ではあるが，何気なしに書かれた私的な記録が，大学図書館に収蔵され研究者に公開されると（プライヴァシーへの配慮など一定のルールが必要なことは言うまでもない），多角的な角度からの分析が可能になり，貴重な歴史資料・情報源として生まれ変わるのである。

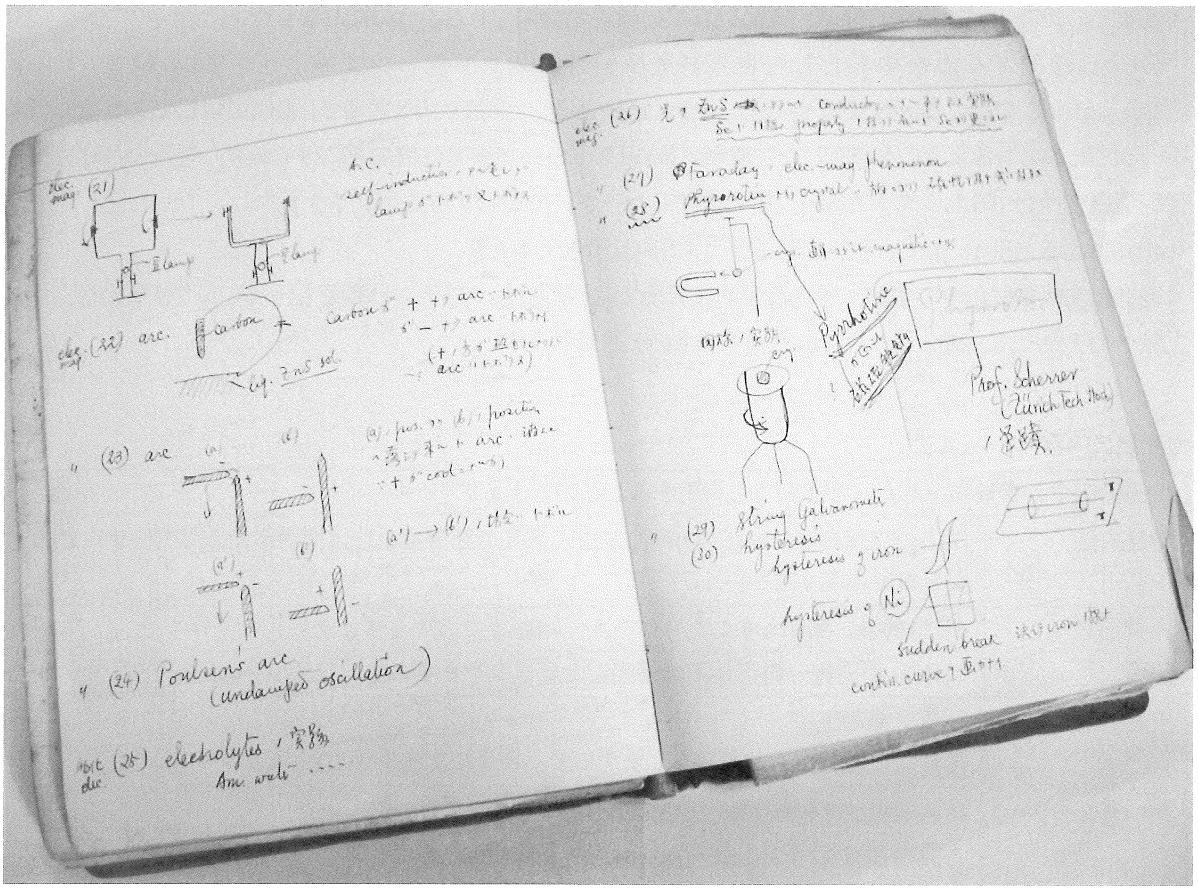
日記や書簡など「私的文書」は，「公的文書」には顕われない部分を垣間見せてくれるだけに，かけがえのない資料である。だから，図書館は，活字になった「公的文書」を収集・保管するの

はもちろんであるが，研究者の日記・書簡・実験ノートなど「私的文書」の収集にも意を用いるべきである。

イギリスのケンブリッジ大学図書館には，あのアイザック・ニュートンの手稿類が所蔵されている。それをもとに世界のニュートン研究者たちは，公刊された文書からは窺い知れないニュートン像を，そしてニュートンの生きた17世紀の科学の様子を浮き彫りにしてきた。

とはいえ，なにもニュートンのような超一流の研究者の「私的文書」だけが，資料として価値を持つわけではない。『フランス革命下の一市民の日記』が本にもなるほどの貴重な歴史資料であるように，「一研究者の日記」「一研究者の書簡」が，この上ない歴史資料になることもありうる。だから，「私的文書」を収集する人々の範囲は，できるだけ広くしておくのが望ましいだろう。そうしておいてこそ，50年後，100年後に行われる「北大の歴史」研究，あるいは「世界の学術界のなかでの北大の位置」についての歴史的検討が，真に充実したものになりうるのだと思う。

堀 健夫の「日記」（1926年4月27日にベルリンの工科大学を訪れたときの部分。学生実験の概要を、図入りで書き留めている。）



北分館に「マルチリンガル支援パソコン」を備えました

このたび，北分館では多言語を読み取り・翻訳できる，「マルチリンガル支援パソコン」を５台備えました。北分館４階，情報化対応学習支援フロアにある個人用閲覧ブースで利用することができます。

翻訳できる言語は，日本語，英語，ドイツ語，フランス語，イタリア語，スペイン語，ポルトガル語，ロシア語，中国語，韓国語となっています。それぞれの言語を相互に翻訳することも可能です。また，各国言語の原稿を読み取り，文字として認識できるように，スキャナとOCRソフトも備えてあります。どうぞご利用下さい。

新しい海外ILLサービス開始のお知らせ

2002年4月15日から，国立情報学研究所が開発したNACSIS-ILLとOCLC-ILLとのシステム間リンクの運用が始まり，OCLC参加館へオンラインで文献複写依頼を申し込むことができるようになりました。従来はBLDSC以外の海外機関に対しては郵送で申し込みをしていましたが，システム間リンクにより文献入手までの時間短縮，料金の軽減，支払い方法の簡素化が図られるようになりました。

OCLCはアメリカを中心とした世界最大の図書館ネットワークです。6月28日現在，Univ. Washington，Univ. Massachusetts，Univ. Pittsburghをはじめとする21機関に対して文献複写依頼を行うことができるようになりました。依頼可能なOCLC参加機関は増加を続けており，最新の情報は国立情報学研究所の「ILLシステム間リンクに関するページ」で確認することができます。
(http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/ILL/ISO/index.html)

現在は文献複写のみですが，国立情報学研究所では図書貸借システムの開発も行っておりますので，海外文献へのアクセスの機会はさらにに拡大するものと思われます。

サービス内容

北海道大学の構成員でしたらどなたでも利用することができます	
申込方法	国内の文献複写サービスと同じです。部局の図書室または図書館情報WEBサービスからお申込みください
所要日数	10日前後。到着しましたらメール，電話等でお知らせします。
料金	1,800円前後（料金体系は機関ごとに異なりますので，おおよその目安です）
支払方法	校費：経費流用 私費：後日料金をお知らせしますので，現金でお支払い下さい
問い合わせ先	附属図書館情報サービス課相互利用掛（海外ILLの実務担当） 内線2974　E-Mail：sogo@lib.hokudai.ac.jp 北分館，部局図書館・室の担当者（申込窓口）

附属図書館情報サービス課相互利用掛（sogo@lib.hokudai.ac.jp）

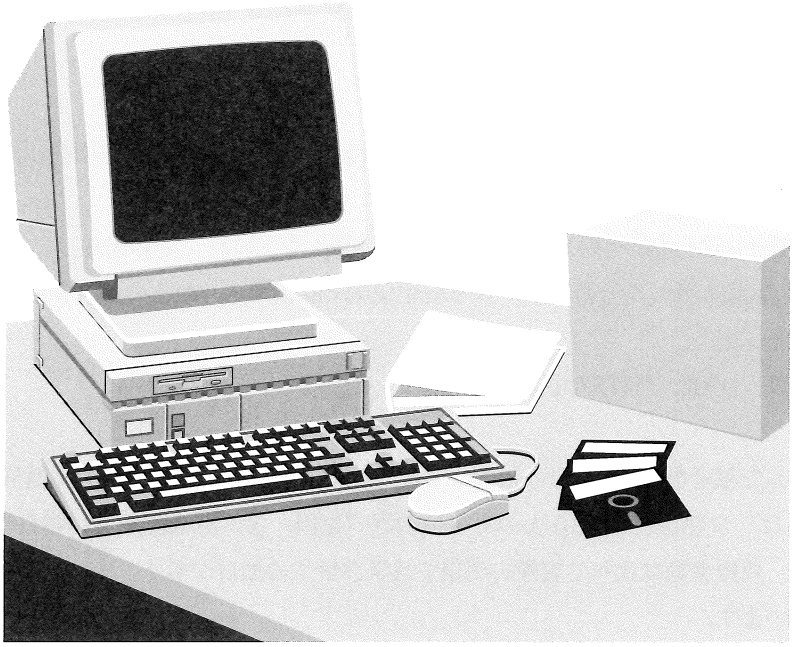
附属図書館で開催した情報検索実習（歯学部）

近年，学術情報が急速に電子ツールに移行し，いまやそれなしに研究文献を収集することは困難となりつつある。そのため歯学部図書室では，平成７年度より大学院一回生の必須科目「歯学研究概論」（年間２単位）の一環として「図書室の利用と文献検索」について講義を行っている。今年度は昼間コース46名（附属図書館で開催２回）・夜間コース７名（歯学部で開催２回）の合計53名を４つの班に分け，各班に対して１時限づつ講義と実習を行った。なお従来，歯学部の検索端末が３台しかなく全員が端末を触ることが出来ないという問題があった。このため今年度は，昼間コース46名２回分の講義は附属図書館参考室設置の９台の端末を借用して開講するということを試みた。

さて，データベース・電子ジャーナルをはじめとする電子ツールの使い方であるが，対象を特定のツールに限定した上でそこから単にいくつかの情報を取り出すだけなら，さほど困難ではない。しかし研究目的でこれらを使う場合，手に入る限りのツールを駆使して情報を網羅的に収集する必要がある。だから，大学院生対象の情報検索実習を成功させるためには，特定の電子ツールを検索させるだけでは足りず，いかにして各種電子ツールの特性とその相互関係を理解させるかが鍵となる。このため今回の実習では，諸々の電子ツールを使いこなし文献を手に入れる方法を理解させるため，各電子ツールの所収データと検索法の違い及び各電子ツール間の相互関係の解説に重点をおいた。

実習の内容は次のとおりであった。まずインターネットに存在する研究情報の概要と北大で利用できるデータベースや電子ジャーナルについての解説を行う。次に，医歯薬系データベースPubMedの検索結果を基に，北大蔵書検索システムを使って特定論文を探し出す。

反省点としては，きちんとした医歯学系マニュアルを準備できなかった点（工業高専のマニュアルを流用），内容が盛りだくさんになりすぎた点が挙げられる。また各回参加人数に大幅なばらつきがあったため，利用者ごとの理解度に差が出たと思われる。これらの点を来年度に向け修正し，より良いものを作りたいと考えている。



医学部図書館の24時間開館について

医学研究科・医学部図書館の24時間開館は，2001年10月1日からの試行に引き続き，2002年4月1日より本格稼動を開始いたしました。

当館の“自動入退館システム”による無人開館（医学部・附属病院の関係機関の所属者に限定）は，1992年5月9日より土曜日閉庁に対する処置として開始されました。このことは「楡蔭」No. 84（1992）にシステムの内容，構成図と共に，概略が紹介されております。また，当時の医学部図書委員長大里外誉郎先生が，「医学のあゆみ」Vol. 164. No. 8（1993.2.20）pp615-617で「医学部図書館の無人化管理システムの問題点」として報告されています。この中で「無人の管理システムで開館する場合，図書・機器・建物の管理が主要な問題である。図書館無人管理システムの成否は，利用者のモラルいかんにかかっているのである。」と指摘され，最後に「…，年間を通して多数の利用者に24時間開館を可能にすることが，筆者らの目標である。」と結んでおられました。

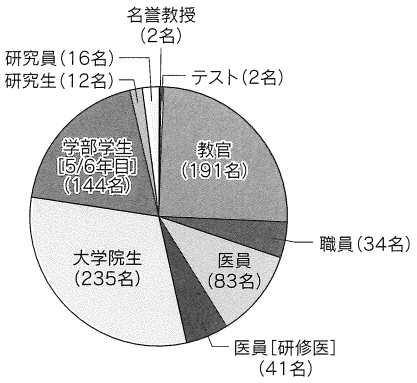
以来，十年余りの時を経て，医学教育をとりまく環境の変化が著しく，全国医科系大学図書館の多くが利用時間，利用者範囲などサービスの拡大に取り組んでおります。

当，医学部図書館も同様で，現実に学内での医学生物系の研究センターとして機能し，医学部はもとより他学部の方々にも広く利用されています。これらの状況を踏まえて，また利用者の強い要望もあり，当初土曜日9時から14時30分までであった無人開館を1997年1月より17時まで延長し，1999年4月には通常の有人開館を22時まで延長しました。そして，2001年10月1日より無人開館を夜間・日曜日・祝日にまで拡大した「24時間開館」を試行し，管理・運用上の問題点を調査してきました。この間，医学部学生の24時間の利用希望が非常に強く，これらも併せて実現する方策を考えてまいりました。以上のような過程を経て昨年度末，医学部教授会，事務当局のご尽力で入退管理システムの更新（大和電設工業製　入退管理システム　Ver.5.0）が実現しました。今回の主要な変更点は，主装置と管理装置の更新であり，玄関ドア，館内の電機配線，照明装置など関連するシステムには全く変更がなく，いわば入退管理システム自体のバージョンアップというべきものです。この新管理システムの（旧システム比較時の）特長は以下のような点です。

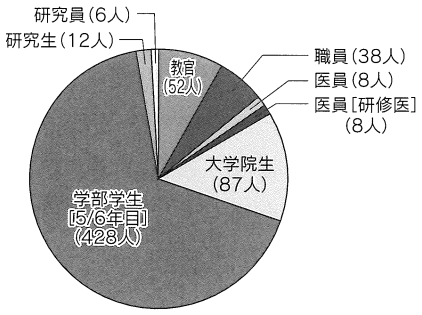
1. 入退館の利用者カードは，従来の“専用カード”を廃止し，教職員は“図書館利用証”，大学院生，学部学生は“学生証”を使用する。
2. 希望者のみ，個々に24時間利用できる「特別利用申請」を受付け，登録する。
3. 利用者登録数に制限が無くなったため，大学院生以上の利用であったものが，学部学生への利用対象の拡大が可能となった。
4. 入退履歴，日報，月報など管理面での性能が向上した。

新入退館システムで運用を開始して3ヶ月弱ですが，2002年6月21日現在の24時間開館の利用概要を紹介します。以下は，全登録者数760人の身分別内訳（左図）と，無人開館時の身分別利用状況（右図）を表したものです。登録者数に比べて実際の利用では学部学生の割合が多く，全利用者数639人中428人（67％）を占めています。

医学部図書館特別利用者登録者数
2002年6月21日現在



2002年4.1-6.21　身分別　利用状況



時間帯別の利用実態は，平日は22時から翌日1時・2時台までが多く，土・日・祝日は9時から19時台までが多く，このことは予想していたところです。しかし，早朝6時から8時台の利用が多いのは予想外のことでした。

当初最も懸念していた飲酒・喫煙・宿泊の形跡は全く見られず，学部学生（現在は5，6年目のみ）のマナーの良さがうかがえ，今後の4年目以下の学部学生への利用拡大にも不安材料は少ないものと考えています。

この24時間利用は，医学研究科・医学部およびその附属施設の教職員・学生，遺伝子病制御研究所などの関係機関に所属する者のみが可能です。これ以外の他学部の方々は，月曜日から金曜日の9時から22時までの時間帯でのご利用をお願いします。

「医学部図書館メール配信サービス」のご案内

医学研究科・医学部図書館では，2002年3月より，当館からのお知らせを希望者に随時メールでお送りする「医学部図書館メール配信サービス」を開始しました。内容は，当館サービスについてのお知らせ，新着図書・電子ジャーナルに関する情報等で，医学部の学生・教職員を中心としたEメールアドレス登録者に対して，2002年6月までに15回配信しています。

学内の方はどなたでも登録可能です。申し込みは以下のホームページより（自動登録）：

http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/faculties/med/main/news/

写真展示（北分館２階閲覧室前）

「写真で見る北海道大学の沿革
第１部　開拓使仮学校から札幌農学校まで」

北分館では，大学祭の開催に合わせて上記の写真展を始めました。

これは本館正面玄関ロビーで行っている「常設展示」を時期をずらして北分館でも見ていただくものです。規模は「常設展示」より小さなものとなりますが，今後北分館においてもおよそ４ヶ月サイクルで順次展示したいと思います。

ちなみに６月８日（土），９日（日）の両日で百名近い一般市民の方が来られました。

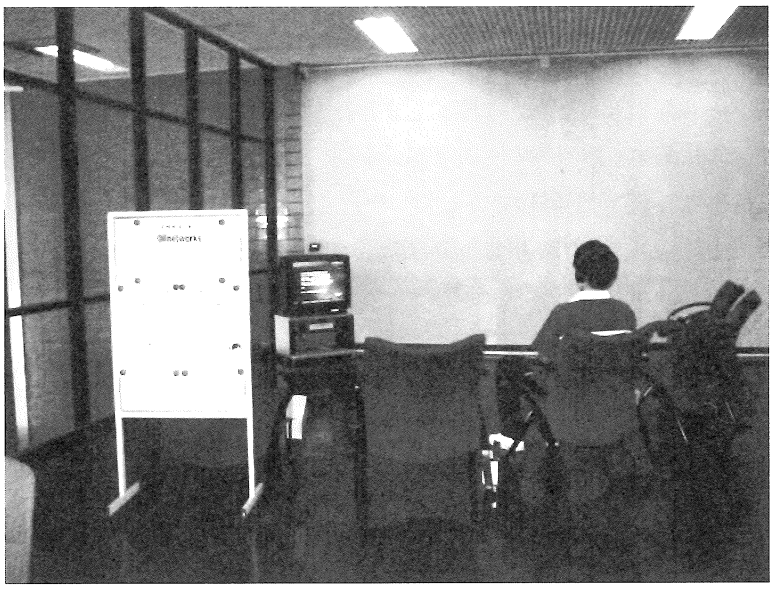
本館でCNN internationalの視聴開始

附属図書館本館に，CNNインターナショナルを視聴できるコーナーが設置されました。

CNNとは，世界最大の24時間ニュース専門局・CNN（Cable News Network）の全世界向け国際放送ネットワークの総称です。全世界向け国際テレビ・ネットワークであるCNNインターナショナルは，地域性や時差を考慮して【アジア・太平洋】【南アジア】【欧州・中東・アフリカ】【南米】【北米】の５つの地域に向けそれぞれ個別の番組編成で放送していますが，日本で視聴できるのは，そのうちの香港を拠点とする【アジア・太平洋版】です。

附属図書館本館の開館中は，いつでも視聴できますので，どうぞご利用ください。

場所は，本館３階の新聞閲覧コーナーの奥です。正面玄関を入ってひとつ上の階へ上がると左側の一番奥にテレビを囲むようにソファを配置したコーナーがあります。このCNNコーナーには，ヘッドホンも備え付けてありますから，面倒な利用手続きは必要ありません。最新のニュースをリアルタイムで聞きたいときや，語学力アップのために，ちょっとした空き時間があったら，是非立寄ってみてください。



平成13年度附属図書館利用者講習会等実施報告

情報サービス課参考調査掛

平成13年度附属図書館（本館）では図書館のもっている資源を大学構成員の方々に活用していただくために，下記のような利用者講習会を企画・実施しました。

オリエンテーションをのぞいて各トピックスは90分で4階情報検索コーナーの端末を使用して行われました。ライブラリーガイダンス，セミナーについては授業等で開館時間内に参加できない受講者のために各トピックス毎に夜間コース（18：15－19：45）を設けました。

○ライブラリーガイダンス（90分）

オリエンテーションでは新しく北大に来られた方々を対象に図書館施設の見学，利用にあたっての説明，サービス内容について案内を行いました。ガイダンスでは北大蔵書検索（OPAC）の使い方や文献を探すための手順について初歩的な実習を行いました。

トピックス	回数	参加人数
図書館オリエンテーション	2	15
北大の図書と雑誌の探し方入門	2	10
文献の探し方入門	2	11

○ライブラリーセミナー（各トピックス90分）

各トピックスごとに冊子体資料の使い方や電子的資料（CD-ROM，オンラインデータベース，インターネット等）の情報資源を使って必要とする文献を入手する方法についてセミナーを行いました。平成13年度は電子ジャーナルの導入により，新企画として「電子ジャーナルの使い方」のセミナーを設けました。

トピックス	回数	参加人数
国内の雑誌論文の探し方	4	22
海外の雑誌論文の探し方	4	23
新聞記事を探す	4	13
本を探す：国内から海外まで	4	10
インターネット情報にアクセス！	4	19
電子ジャーナルの使い方	1	4

○ゼミ補助（90分）

教官からの要望によりゼミ単位で授業テーマにそった文献収集法についての実習を行いました。セミナー内容については事前に教官と打ち合わせを行い要望があったデータベースや参考図書の紹介，使い方等を教官列席のもとに実習してきました。授業補助としての講習会は年々増えていく傾向にあります。

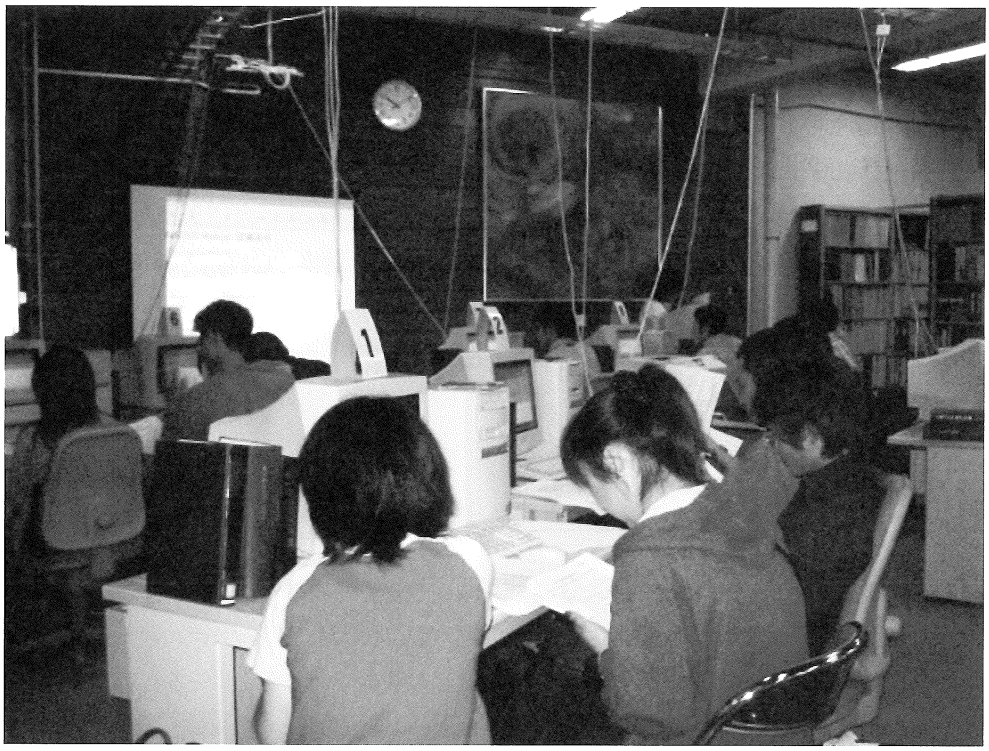
ゼミ種別	回数	参加人数
学部ゼミ文献検索	10	113
大学院ゼミ文献検索	2	13

○情報探索入門（90分）

上記のほかに平成13年度から新入生を対象に「情報探索入門」の講義が情報メディア教育センターで実

施されました。

全学教育科目「一般教育演習」担当教官の希望により，図書館員が90分講義を担当し，前後期合わせて39回，826名の受講がありました。(詳しくは楡蔭112号に掲載)



帝政ロシア地誌コレクションについて

スラブ研究センター講師　兎内　勇津流

帝政ロシア地誌コレクションは，18世紀後半に作成されたロシア各地方，および主要都市の地図，16世紀初頭に神聖ローマ皇帝使節としてロシアを訪問したジギスムント・フォン・ヘルベルシュテイン（1486-1566）のロシア見聞記，および18世紀後半から19世紀初頭にかけて，主に西欧で出版されたロシア風俗・事情を伝える書物など，あわせて15点の資料から成る。これら全てを書架にならべても，わずか2段を塞ぐに過ぎないが，いずれも，希少性が高く，かつ資料的価値の高いものであり，附属図書館の蔵書の一角を占めるにふさわしく，また今後のロシア研究に大いに裨益するものと期待される。ここでは，そのいくつかをかいつまんで紹介したい。

最初に取り上げるのは，主として18世紀70年代から80年代にかけて製作されたロシア各地の地図集である。これははじめから地図帳として刊行されたのではなく，収集者が地図帳として1冊に綴じ合わせたもので，全部で49図を含む。図の製作者や大きさは一定しないが，おおむね見開きで縦50cm横70cmの大きさに1県を収めている。ロシア科学アカデミーのヤコブ・フリードリヒ・シュミット（?-1786）やイヴァン・トルスコット（1721-1786）によって作成されたものが多い。その収録範囲は広く，東シベリアから露領アメリカ，中央アジア，カフカス，フィンランド湾，バルト海沿岸地方，クリミア，モルダビア，ワラキアの図も収める。また，ペテルブルク，モスクワ，アストラハン等の都市地図，アンナ・イワノブナ帝（在位1730-1740）の戴冠を祝う花火の図までが含まれる。

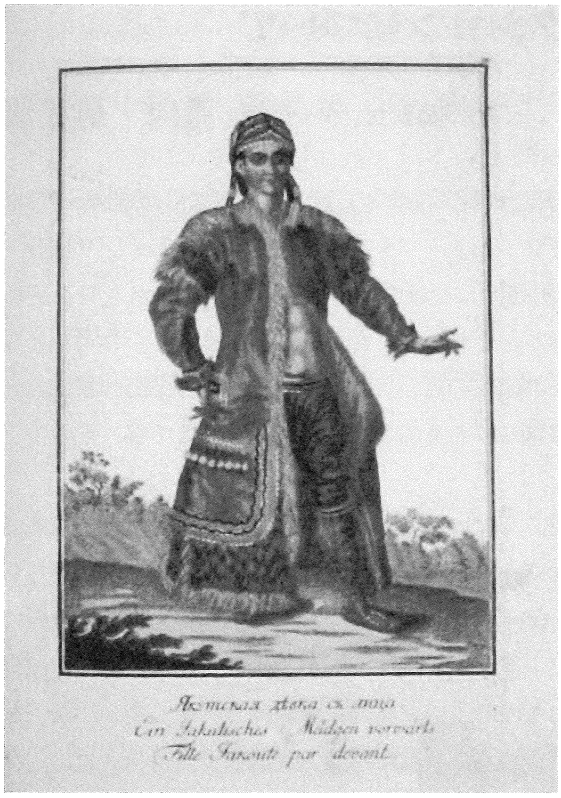
附属図書館は，すでに，1745年刊行のロシア科学アカデミーによる地図帳を所蔵し，また19世紀初頭に軍の地図部が作成したロシア西部図，1737年刊のダンヴィル製作の中国地図帳等も所蔵する。われわれは，この地図帳を，以上の資料と比較することにより，18世紀ロシアにおける地図製作の発展を，具体的に辿ることができることになった。

次に紹介したいのは，ジギスムント・フォン・ヘルベルシュテインのロシア見聞記である。彼は神聖ローマ皇帝の外交使節として，1517年と1526年の2度にわたってモスクワに派遣され，モスクワ大公ワシーリー3世（在位1505-1533年）との交渉に臨んだ。帰国後の1549年にウィーンにおいてラテン語版のロシア見聞記Rerum Moscoviticarum commentariiが出版されると，大変な評判になり，各地でラテン語版やドイツ語版が次々と版を重ね，現在に至るまで16世紀ロシア史の基本史料として活用されている。英語訳やロシア語訳も存在するが，残念ながら，邦訳はまだない。

今回購入したのは，そのラテン語第2版（バーゼル，1551年刊）およびドイツ語第4版（フランクフルト，1576年刊）であるが，いずれも状態は良好である。

次に，2種類のロシア諸民族図集について述べる。これは，ロシア科学アカデミーの探検の成果をもとにして，『開かれるロシア，あるいはロシア帝国に居住するすべての民族の衣裳集』と題して12分冊で1774-1776年に刊行された図版を原画とする。この図版は，銅版に手彩色が施された美しいもので，ヨーロッパの読者にエキゾチックな香りが評価されたのであろう。探検隊のメンバーであるヨハン・ゴットリープ・ゲオルギ（1729-1802）の著書『ロシア国内に居住するすべての民族の生活上の儀式，衣服，住居，その他に関する記述』に使用され，広く普及した。

今回購入した資料は，当初の原画を1冊に綴じ合わせたものと，その後ロンドンで1803年に英仏語による解説付で出版されたものである。後者は，英国人の画家が，新たに版を起したもので，原作と図柄は類似するものの，比較すると，背景が省略された上，西欧人の趣向にあわせるかたちで，美しさ，親しみやすさが強められていることがわかる。



未婚のヤクート娘（ロシア諸民族衣裳集ロシア版より）

イギリス版の同図

また，今回のコレクションをチェックしていると，ル・クレルクのロシア史（パリ，1783-1794年刊）の付録図集に，この図集の図柄が引用されていることに気付いた。引用は全95図中30図以上にのぼるが，これもこの図集の影響力の大きさを証拠だてよう。

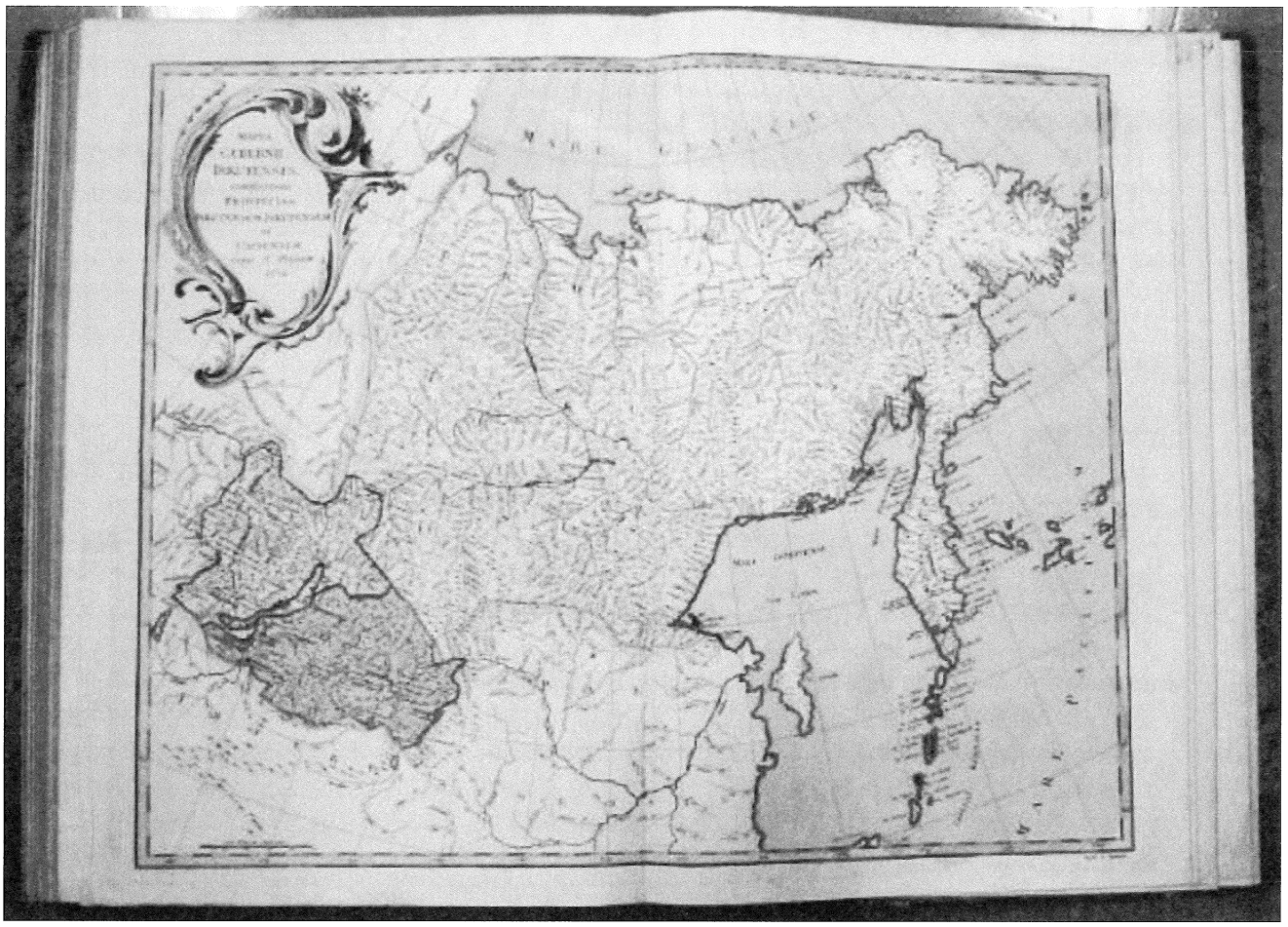
なお，岩田行雄氏のご教示によれば，国内におけるゲオルギの民族誌の所蔵状況としては，文化女子大学図書館がフランス語版を所蔵し，さらにドイツ語版から図版だけを集めて1冊に改装したものを所蔵する。また，明治大学図書館がロシア語版改訂第2版を所蔵するとのことである。この他，スラブ研究センター図書室は，2種類のロシア語版のマイクロフィルムを所蔵する。

最後に，ユリウス・ハインリッヒ・クラプロート（1783-1835）のカフカス紀行を取り上げる。彼は，著名な化学者の子としてベルリンに生まれた。少年期より中国語に熱中し，1805年からは，中国への使節団に随行してキャフタまで赴き，蒙古語，満州語に習熟し，多数の資料を収集した。カフカスに赴いたのは，それから帰還後まもない1807年から1809年にかけてのことであった。今回購入したのは，1812-1814年にドイツ語で出版されたその報告書と，その付録『カフカス諸語』である。

その後クラプロートはロシアを離れ，1815年以後はパリに住み，驚異的な語学力を駆使してシベリア，中国研究からエジプト学に至るまでの多彩な業績を挙げた。その中には，林子平の地理書『三国通覧図説』（1786年刊）の仏訳という仕事も含まれる。

附属図書館は，すでに彼の著作5点を所蔵しているが，今回，カフカス紀行が加わったことにより，ヨーロッパにおける東洋学の源流にあるその業績は，われわれにとって一層近しいものとなった。

以上，主なものを駆け足で紹介したが，国内随一の水準にあると思われる北大附属図書館所蔵のロシア・北方資料に，これら通常では入手し難いコレクションが加わったことの意義は大きく，今後，研究・教育の両面で活用されることを期待したい。



ヤクート県（18世紀ロシア地図集より。トレスコット編，1776年）

平成13年度特別図書購入費で購入した資料

・前衛雑誌復刻集成

世紀の変わりめを通過した現在，かつて「前衛」とよばれた運動の決して少なくない数が，豪華な全集版として書棚に分類されている。軍事用語からとられた呼称をもつ，この攻撃的な運動とはいったい何だったのか？ジャン・ミシェル・プラス社『前衛雑誌復刻集成』は，フランスを中心に出版された前衛雑誌の復刻を通じて，当時の運動を今に伝える。本集成は「ダダ」紙や「シュルレアリスム革命」紙など，運動を知る上で不可欠な資料をはじめとした全25巻から編まれる。運動としての射程を今，再び問い直すにせよ，あるいは実証研究に不可欠なドキュメントとして対象化するにせよ，前衛運動とは何だったのか，この不確定な問いに答えるために本集成は欠くことのできないものとなるであろう。

・心理学百科事典　全８巻

2000年３月に新たに刊行されたアメリカ心理学会（APA）とオックスフォード出版局との共同出版による権威ある百科事典である。1,000人を越える世界各国各分野の権威により執筆され，行動心理学，認知心理学，発達心理学，教育心理学，社会心理学等，心理学に関わる全ての分野を含んでいる。また，古典的理論から最新の理論までカバーされ，基本的概念，方法論，研究，成果，治療，療法はもちろんのこと，各分野で発生した問題点についても言及されており，大変使いやすい内容となっている。

・Managing the Environment for Sustainable Development Vol. 1 - 6

今日の地球環境問題は，これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄という経済社会の仕組みに対して根本的に再検討を促し，環境に対する負担を最小限にしようとする循環型システムへの移行を目指すものとなっている。地球上のあらゆる生命の生態系を保護し，危機を予測し計画的に管理していくことは，人類の継続的発展のための最重要課題である。本シリーズは，地球環境問題に対処するための基本的理念や多くの提案や計画について，これまでさまざまな分野で発表された論文を精選し，都市・農村・水資源・有害廃棄物・危機管理計画・倫理と哲学の６つのテーマ別に収録したものであり，環境問題の基本文献として人文・社会・自然科学各分野にとってきわめて有益である。

・日本植民地文学精選集　全20巻

満州編（全６巻），朝鮮編（全６巻），台湾編（全８巻）の三部構成となっている。それぞれの地域出身の作家および日本人作家による，1940年前後の作品を所収している。

・戦後社会福祉基本文献集　全Ⅲ期　全30巻

国民的課題でもある社会福祉のあり方を考えていく上で欠かすことのできない戦後の重要文献を収録している。1945～75年までを対象に体系的に集められており，関心のあるだれもが読まなければならない必読文献集でもあるといえる。

・University Reform in Great Britain Part 1: Oxford and Cambridge 14 vols.

本書は，19世紀の英国における大学改革に関わる論争を，現在では入手困難なオリジナル資料の復刻版によりたどるコレクションである。改革賛成派のみならず反対派の議論も含めて幅広く資料を収録し，現在の英国高等教育の制度や慣行，言説がどのような経緯により成立したかを知ることができる。教育史，社会史はもとより教育哲学，教育社会学，教育政策などの研究者に利用可能な資料集である。

・ル・ジャンドル台湾紀行　全４巻

本書（原題『李氏台湾紀行』）は，“Notes of Travel in Formosa”と題して1874（明治7）年にル・ジャンドルが書いたものを太政官正院で翻訳・編修したものである。台湾出兵の根拠となった日本政府顧問ル・ジャンドルの幕末・明治初年の台湾実情報告集。国立公文書館所蔵本の復刻版である。

・La presomption d'innocence　全13巻

本書は，2000年６月15日に公布されたフランスの「無罪推定の保護と被害者の権利強化に関する法律」の議会資料をまとめたものである。同法の法案が1998年に初めて国民議会に提出されたときは，わずか40箇条

のコンパクトなものだったが，議会審議の中で膨大な修正変更を経て，最終的にできあがった法律は142箇条にも及ぶ。全13巻からなる本書は，このダイナミックな議会審議の資料を完璧に網羅する立法過程集成であり，本書によってはじめて無罪推定法の歴史的意義が明らかになると思料される。

・Zeitschrift fuer Wirtschaftsrecht　1993-2000年

名称こそ「経済法雑誌」というものだが，扱う領域は民法・商法・民事訴訟法・破産法と私法全般にも及んでおり，内容的には論文のみならず，裁判例も取り上げられている。またドイツ法のみならず，むしろ近年はヨーロッパ統合をにらみ，ヨーロッパ全体にかかわる問題が取り上げられており，ドイツ語文献ばかりでなく，時として英語・フランス語・その他の言語の論稿も掲載されている。特にEU市場の域内統一の動きが激しい昨今では，EU全体にかかわる論稿が多く，ドイツ語圏におけるEU法のフォーラム的役割を果たしており，古典的な法学者もこれに参加し，注視の的となっている。現代ドイツ法のみならず，現代ヨーロッパ私法を語るうえで必要不可欠な文献と言え，引用頻度も極めて高い文献である。

・Trusts and Trustees, 2nd ed.　全23巻

アメリカ信託法に関する基本的な体系書。信託の設定と管理に関係する法を網羅的に説明している。信託の定義，起源，分類，設定，期間，受託者の権限・義務・責任，受益者の種類・権限・権利に関する法を説明している。

・中外物価新報（復刻版）1886-1889　第19巻－第30巻

『日本経済新聞』の前身で，1876（明治9）年に創刊された。当初週刊，のち1878年より週2回刊行，1882年より週3回刊行を経て，1885年より日刊となる。創刊時より全国主要都市の「商況」即ち物価及び株価データと解説を掲載，他に「海外商況」及び米相場の速報等の「電報」にも紙数を割いている。1889年『中外商業新報』，1942年『日本産業経済』と改題，1946年『日本経済新聞』と改題し，現在に至っている。本誌は既にマイクロフィルム版が（株）ニチマイより刊行されており（後継紙『中外商業新報』の昭和期の一部のみ文学部所蔵），その復刻版である。

・Mainstream & critical social theory　全8巻

この資料は，マルクス，ヴェーバー，ミード，パーソンズなどの，19～20世紀を代表するとともに，現代社会理論の古典となった諸論文と，それらを受け継ぐかあるいは批判的立場を採用することでそれらから影響を受けた現代の主要な理論家の代表的業績をまとめた論文集であるとともに，編集者による，それらの諸業績をテーマごとに整理し，200年間の社会理論の動向の全体像を概観できるオリジナル論文を掲載した現代社会理論のガイドブックとしての性格をもつものである。

・都市問題文献書誌　戦前編（大正14～昭和20）・別巻　全11巻

雑誌『都市問題』の毎号巻末に付けられている「都市問題索引」は研究上有益なものである。なぜなら，主要な諸雑誌に発表された都市に関する記事や論文の書誌を掲載しているのが，この「都市問題索引」であり，これによって発行時点の最新論文が一覧することが可能になるからである。雑誌『都市問題』は大正14年に創刊されている。本書は，創刊から昭和20年までの戦前分および別巻（補遺・索引・解説）から成る全11巻である。

・Race and ethnicity: critical concepts　全4巻

20世紀における人種と民族に関する知識に焦点をあてた，あらゆる形態の著作物およそ100点を網羅した文献集である。全体を4つのテーマ「理論」「アイデンティティとコミュニティ」「人種主義」「多文化主義と統合」に分け，関連分野に携わる研究者の便宜をはかると同時に，人種的，民族的構造および行動から引き起こされた政策論争について研究・調査されている方々の要にも応えられる内容となっている。

・戦時新聞検閲資料

戦時における新聞の検閲に関する資料である。

・Columbia Journalism Review　Vol. 5 - 37

コロンビア大学におけるジャーナリズム研究のレビューである。

○世界の主要日刊紙CD-ROMの運用を開始しました(北分館)

世界の主要日刊紙CD-ROMが北分館に備えられ，2階の開架閲覧室内に同コーナーを設けました。

大学院国際広報メディア研究科プロジェクトによるもので，6月1日から利用可能となっています。

各国語によるOSのリムーバブルディスクを備えた専用端末よりキーワード等で記事を検索し，本文を閲覧することができます。カウンターにお申し出の上，どうぞご利用下さい。

平成13年度購入分新聞CD-ROMリスト

発行国・紙名	刊行頻度	収録範囲	媒体
日本			
毎日新聞	日刊	Full Text1991-2000	CD-ROM
読売新聞	日刊	明治・大正	CD-ROM
朝日新聞戦前紙面データベース	日刊	Full Text1926-1934	CD-ROM
同盟通信社「写真特報」コレクション	日刊	昭和10年代	CD-ROM
日本経済新聞＋日経産業・金融・流通新聞	日刊	Full Text1990-2000	DVD-ROM
イギリス			
The Guardian(1821-)+Observer	日刊	Full Text1990-2000	CD-ROM
The Times(1785-)+The Sunday Times	日刊	Full Text1990-2000	CD-ROM
中国			
人民日報	日刊	Full Text1946-2000	CD-ROM
ロシア			
独立新聞	日刊	Full Text1998-2000	CD-ROM
モスクワニュース	週刊	Full Text1996-2000	CD-ROM
フランス			
Le Monde	日刊	Full Text1995-2000	CD-ROM
ドイツ			
Suddeutsche Zeitung	日刊	Full Text1998-2000	CD-ROM

○附属図書館(本館)で提供している国内新聞データベース

附属図書館提供の国内発行の新聞データベースです。

“北海道新聞記事データベース”については学内どこからでもアクセス可能です。

＊図書館Webサイト「学術文献データベース」からアクセス

(http://www.lib.hokudai.ac.jp/riyoannai/exdb/index.html)

その他のデータベースは附属図書館4階参考閲覧室で利用できます。

利用の際は4階参考調査掛カウンターへお申込みください

(参考調査掛　ex2973　e-mail: ref@lib.hokudai.ac.jp)

データベースタイトル	収録範囲		媒体	利用方法
北海道新聞記事データベース	1988.7-current	記事全文	Web	図書館Webからアクセス(学内専用)
朝日新聞全文記事データベース	1984.8-current	記事全文	Web	附属図書館4階参考閲覧室で利用
CD-毎日新聞	1991-2001	記事全文	CD-ROM	〃
日本経済新聞CD-ROM	1990-2001	記事全文	CD-ROM	〃
朝日新聞号外	1879-1998	紙面イメージ	CD-ROM	〃
朝日新聞戦前紙面データベース	1927-1934	紙面イメージ	CD-ROM	〃
明治の讀賣新聞	1874-1912	紙面イメージ	CD-ROM	〃
大正の讀賣新聞	1912-1926	紙面イメージ	CD-ROM	〃
CD-ASAX 50yrs.	1945-1995	見出し・書誌情報	CD-ROM	〃
CD-5yrs.　CD-毎日新聞	1991-1995	見出し・書誌情報	CD-ROM	〃

教官著作寄贈図書

2002.3.1-2002.6.30

[本　館]

(法学部)

藤原　正則	不当利得法	信山社出版	2002

(医学部)

真野　行生ほか訳	運動発達と反射	医歯薬出版	2002

(スラブ研究センター)

家田　修編	The New Structure of the Rural Economy of Post-Communist Countries	Slavic Research Center, Hokkaido University	2001
家田　修編	Transformation and diversification of rural societies in Eastern Europe and Russia	Slavic Research Center, Hokkaido University	2002

(高等教育機能開発総合センター)

木村　純ほか編著	21世紀・新しい「いのち」像	北大図書刊行会	2000

(医療技術短期大学部)

花田　博之	放射化学	オーム社	2001

[北分館]

(経済学部)

園　信太郎	サヴェジ基礎論覚書	岩波出版サービスセンター	2001

(総合博物館)

高井　宗宏	私の捉え得た北大		2000

ご恵贈誠にありがとうございました。図書館では本学教官が執筆した図書資料を収集しています，新たに本を出版される際には，是非ご恵贈くださるようご協力お願い致します。

平成13年度　図書館統計

蔵書冊数・雑誌所蔵種類数（平成13年度）

区　分	蔵書冊数（14.3.31現在）			図書受入冊数			所蔵種類数（14.3.31現在）			雑誌受入種類数		
	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計
附属図書館	692,679	553,495	1,246,174	14,137	8,896	23,033	17,471	10,626	28,097	2,365	847	3,212
法学研究科・法学部	(90,845)	(160,312)	(251,157)	(2,444)	(3,641)	(6,085)	(697)	(480)	(1,177)	(611)	(419)	(1,030)
経済学研究科・経済学部	(106,457)	(70,572)	(177,029)	(1,161)	(1,257)	(2,418)	—	—	—	—	—	—
教育学研究科・教育学部	(55,399)	(25,420)	(80,819)	(2,662)	(639)	(3,301)	—	—	—	—	—	—
北分館	170,646	99,983	270,629	4,778	1,492	6,270	1,394	776	2,170	344	241	585
言語文化部	(31,358)	(73,938)	(105,296)	(836)	(1029)	(1,865)	(92)	(203)	(295)	(41)	(172)	(213)
高等教育機能開発総合センター(旧教養部含)	(16,853)	(9,048)	(25,901)	(302)	(30)	(332)	(176)	(158)	(334)	(65)	(32)	(97)
国際広報メディア研究科	(479)	(278)	(757)	(141)	(41)	(182)	(69)	(23)	(92)	(49)	(21)	(70)
文学研究科・文学部	152,217	188,237	340,454	6,153	5,290	11,443	2,941	1,663	4,604	1,420	668	2,088
教育学研究科・教育学部	34,151	8,815	42,966	0	0	0	1,928	373	2,301	1,225	237	1,462
経済学研究科・経済学部	4,690	2,877	7,567	484	496	980	1,290	519	1,809	932	357	1,289
理学研究科・理学部	32,825	150,505	183,330	230	2,615	2,845	595	2,826	3,421	206	682	888
医学研究科・医学部	71,586	107,766	179,352	1,037	1,368	2,405	3,020	2,539	5,559	967	714	1,681
歯学研究科・歯学部	23,697	21,360	45,057	1,022	203	1,225	571	546	1,117	374	186	560
薬学研究科・薬学部	5,666	16,540	22,206	316	476	792	126	294	420	2	7	9
工学研究科・工学部	169,875	149,933	319,808	896	523	1,419	2,351	2,584	4,935	849	778	1,627
農学研究科・農学部	174,427	118,425	292,852	1,557	968	2,525	3,738	2,868	6,606	1,302	742	2,044
北方生物圏フィールド科学センター	30,439	3,262	33,701	0	0	0	238	145	383	160	98	258
獣医学研究科・獣医学部	11,355	25,128	36,483	129	330	459	451	880	1,331	116	203	319
水産科学研究科・水産学部	83,944	55,985	139,929	701	705	1,406	2,324	2,064	4,388	1,175	740	1,915
地球環境科学研究科	10,241	8,077	18,318	394	445	839	231	298	529	127	114	241
低温科学研究所	9,054	21,709	30,763	67	291	358	593	713	1,306	304	290	594
電子科学研究所	6,091	20,158	26,249	26	529	555	370	476	846	163	119	282
遺伝子病制御研究所	822	6,378	7,200	289	459	748	4	95	99	106	67	173
触媒化学研究センター	3,508	13,663	17,171	28	245	273	52	232	284	13	44	57
スラブ研究センター	2,663	84,777	87,440	216	8,444	8,660	91	1,311	1,402	58	486	544
大型計算機センター	0	0	0	0	0	0	49	2	51	49	2	51
先端科学技術共同研究センター	79	1	80	0	0	0	2	4	6	0	4	4
情報メディア教育研究総合センター	2,358	725	3,083	0	0	0	40	17	57	30	5	35
総合博物館	836	1,488	2,324	392	1,373	1,765	36	126	162	36	126	162
医療技術短期大学部	31,985	4,149	36,134	998	93	1,091	674	135	809	397	66	463
事務局(旧教養部含)	4,765	1,113	5,878	0	0	0	—	—	—	—	—	—
計	1,730,599	1,664,549	3,395,148	33,850	35,241	69,091	40,580	32,112	72,692	12,720	7,823	20,543

利用状況（平成13年度）

開館日数・入館者数

区分		本館							
		開架閲覧室		書庫		参考閲覧室		北方資料室	
		日数	人数	日数	人数	日数	人数	日数	人数
平日	日中	235	280,826	235	18,896	243	40,543	243	2,947
	夜間	186	85,747	186	2,591	−	−	−	−
土・日・休		104	52,578	104	2,234	−	−	−	−
計		339	419,151	339	23,721	243	40,543	243	2,947

区分	本館		
	開架閲覧室	書庫	北方資料室
	人数	人数	人数
学部学生	245,785	−	739
大学院生	32,895	23,721	777
教官	55,468		375
職員			161
その他			889
放送大学学生	1,955	−	6
その他不明	83,048	−	−
計	419,151	23,721	2,947

区分		北分館(2階閲覧室入館ゲート)					
		開架閲覧室		書庫		マルチメディア公開利用室	
		日数	人数	日数	人数	日数	人数
平日	日中	243	302,547	243	975	243	123,967
	夜間	188	83,690	188	145	188	41,634
土・日・休		100	48,439	100	125	100	27,943
計		343	434,676	343	1,245	343	193,544

区分	北分館	
	開架閲覧室	書庫
	人数	人数
学部学生	380,714	−
大学院生	24,891	1,245
教官	2,666	
職員	8,377	
その他		
放送大学学生	4,568	−
その他不明	13,460	−
計	434,676	1,245

館外貸出冊数

区分	本館								合計
	開架閲覧室		書庫		国際資料室		北方資料室		
	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	冊数
学部学生	30,065	50,477	4,288	6,463	37	52	717	1,243	58,235
大学院生	11,098	19,059	7,733	21,212	46	99	365	776	41,146
教官	1,663	2,797	3,036	9,452	12	22	233	429	12,700
職員	1,668	3,043	434	638	6	8	156	263	3,952
放送大学学生	503	849	229	389	0	0	5	11	1,249
その他	303	607	250	568	8	30	369	1,047	2,252
計	45,300	76,832	15,970	38,722	109	211	1,845	3,769	119,534

区分	北分館				合計
	開架閲覧室		書庫		
	人数	冊数	人数	冊数	冊数
学部学生	43,777	71,558	1,110	1,466	73,024
大学院生	5,482	9,982	869	1,943	11,925
教官	760	1,442	279	614	2,056
職員	1,086	1,656	78	123	1,779
放送大学学生	687	1,291	22	35	1,326
その他	218	355	200	391	746
計	52,010	86,284	2,558	4,572	90,856

レファレンスサービス件数

区分		文献所在調査	事項調査	利用指導	その他	合計
本館	参考	1,376	146	745	155	2,422
	北方	525	675	150	150	1,500
北分館		262	21	259	21	563

文献複写件数・枚数及び相互貸借件数

区分			文献複写			現物貸借
			件数	電子複写枚数	マイクロリーダー枚数	冊数
本館	国内	依頼	1,982	−	−	517
		受付	7,110	53,926	5,616	2,159
	海外	依頼	816	−	−	80
		受付	26	97	−	4
北分館	国内	依頼	117	1,136	0	130
		受付	242	2,428	0	420
	海外	依頼	−	−	−	−
		受付	−	−	−	−

3年間の利用状況

区分		平成11年度	平成12年度	平成13年度
総入館者数	本館	536,071	504,774	459,694
	北分館	270,960	395,070	434,676
館外貸出冊数	本館	116,524	115,152	119,534
	北分館	60,225	79,214	90,856
レファレンスサービス件数	本館	3,604	4,563	3,922
	北分館	390	719	563
文献複写受付件数	本館	7,248	6,809	7,136
	北分館	321	377	242
現物貸借受付件数	本館	2,294	2,198	2,163
	北分館	495	415	420

貸出頻度順リスト

本館・開架閲覧室

順位	貸出回数	冊数	書　　名	著　　者
1	62	8	生化学	Lubert Stryer著
2	54	9	細胞の分子生物学　第3版	Bruce Alberts[ほか]著
3	51	8	ヴォート生化学　上	Donald Voet, Judith G. Voet著
4	50	3	債権各論(民法／2)	内田貴著
5	49	6	ミクロ経済学(新経済学ライブラリ／4)	武隈慎一著
6	40	3	ハリー・ポッターと賢者の石	J.K.ローリング著
7	38	5	ワトソン・組換えDNAの分子生物学　第2版	James D. Watson[ほか]著
8	35	3	記憶(認知心理学／2)	高野陽太郎編
8	35	4	憲法裁判50年	中村睦男, 常本照樹著
8	35	4	遺伝子	Benjamin Lewin著
11	34	3	ハリー・ポッターとアズカバンの囚人	J.K.ローリング著
12	33	3	キーポイント偏微分方程式(理工系数学のキーポイント／10)	河村哲也著
12	33	3	量子力学　1	猪木慶治, 川合光著
14	32	3	ハリー・ポッターと秘密の部屋	J.K.ローリング著
15	31	2	憲法(伊藤真試験対策講座／5)	伊藤真著
16	30	3	入門ミクロ経済学	井堀利宏著
17	29	8	ヴォート生化学　下	Donald Voet, Judith G. Voet著
18	28	3	なっとくする演習・熱力学	小暮陽三著
19	27	3	固体物理学入門　上	Charles Kittel著
19	27	2	総則・物権総論　第2版, 補訂版(民法／1)	内田貴著
19	27	2	総則・物権総論　第2版(民法／1)	内田貴著
22	26	4	プレートテクトニクスの基礎	瀬野徹三著
23	25	8	分子細胞生物学　第3版　上	H. Lodish[ほか]著
24	24	3	民事訴訟法	上田徹一郎著
24	24	1	工学部・水柿助教授の日常	森博嗣著
24	24	2	刑事訴訟法	白取祐司著
24	24	3	有機化合物のスペクトルによる同定法	Silverstein, Webster著
24	24	2	永遠の仔　上	天童荒太著
24	24	2	海洋のしくみ	東京大学海洋研究所編
30	23	6	環境法入門(日経文庫／798)	畠山武道, 大塚直, 北村喜宣著
31	22	3	固体物理学入門　下	Charles Kittel著
31	22	3	西洋政治思想史	佐々木毅, 鷲見誠一, 杉田敦共著
31	22	4	フィールドワーク:書を持って街へ出よう(ワードマップ)	佐藤郁哉著
31	22	3	演習ミクロ経済学(演習新経済学ライブラリ／1)	武隈慎一著
31	22	1	なっとくする電磁気学	後藤尚久著
36	21	4	遺伝子の分子生物学　上	James D. Watson[ほか]原著
36	21	2	不法行為(法律学講座双書／債権各論／2)	平井宜雄著
36	21	2	キーポイント線形代数(理工系数学のキーポイント／2)	薩摩順吉, 四ツ谷晶二著
36	21	2	憲法　新版／1	野中俊彦[ほか]著
36	21	2	永遠の仔　下	天童荒太著
36	21	2	バイブル経済原論:公務員試験地方上級・国家II種　第2版	早稲田公務員セミナー編
36	21	1	チーズはどこへ消えた？	スペンサー・ジョンソン著
36	21	1	すいかの匂い(新潮文庫)	江国香織著
44	20	1	火車(新潮文庫)	宮部みゆき著
44	20	2	Essential細胞生物学	Bruce Alberts[ほか]著
44	20	1	ポケット六法　平成12年版	加藤一郎[ほか]編
44	20	2	ボルハルト・ショアー現代有機化学　下	K.P.C. Vollhardt, N.E. Schore著
44	20	1	神の子どもたちはみな踊る	村上春樹著
49	19	3	標準生理学(Standard textbook);第4版	本郷利憲[ほか]編
49	19	1	バトル・ロワイアル:Pulp fiction	高見広春著
49	19	2	ボルハルト・ショアー現代有機化学　上	K.P.C. Vollhardt, N.E. Schore著
49	19	2	ゼロから学ぶ量子力学	竹内薫著
49	19	1	片想い	東野圭吾著
49	19	1	アンテナ	田口ランディ著
49	19	1	大人のための勉強法(PHP新書／112)	和田秀樹著
49	19	1	債権総論・担保物権　第4刷(民法／3)	内田貴著
49	19	1	中国語文法概論	李臨定著
49	19	4	有機化学　中　第6版	Robert T. Morrison, Robert N. Boyd著
49	19	1	こうばしい日々(新潮文庫)	江國香織著
49	19	4	詳解力学演習	後藤憲一, 山本邦夫, 神吉健編

北分館・開架閲覧室

順位	貸出回数	冊数	書　　名	著　　者
1	187	25	細胞の分子生物学	Bruce Alberts[ほか]著
2	147	9	Essential細胞生物学	Bruce Alberts[ほか]著
3	82	7	例解熱・統計力学演習(物理入門コース　4)	戸田盛和,市村純著
4	79	7	生化学	Lubert Stryer著
5	74	7	微分積分学:詳説演習	塹江誠夫[ほか]共著
6	72	9	演習微分積分(サイエンスライフ　3)	寺田文行[ほか]共著
7	71	10	ワトソン・組換えDNAの分子生物	James D. Watson[ほか]著
7	71	8	力学(物理学教科書シリーズ)	羽鳥尹承著
9	69	6	例解力学演習(物理入門コース　1)	戸田盛和,渡辺慎介著
10	67	10	基本線形代数	水本久夫著
11	63	5	解析力学(物理入門コース　2)	小出昭一郎著
12	61	7	物理のための数学(物理入門コース　10)	和達三樹著
13	60	5	微分・積分	岩谷輝生,田中正紀共著
14	59	4	すぐわかる微分積分	石村園子著
15	57	5	なっとくする演習・熱力学	小暮陽三著
15	57	5	熱・統計力学(物理入門コース　7)	戸田盛和著
17	56	4	電磁気学の考え方(物理の考え方　2)	砂川重信著
18	55	8	例解物理数学演習(物理入門コース　5)	和達三樹著
19	52	3	微分積分:明解演習(明解演習シリーズ　2)	小寺平治著
19	52	5	NEW薬理学	田中千賀子,加藤隆一編集
21	51	8	遺伝子の分子生物学　上	James D. Watson[ほか]原著
21	51	4	例解電磁気学演習(物理入門コース　2)	長岡洋介,丹慶勝市著
23	50	9	固体物理学入門　上	キッテル[著]
24	49	8	電場と磁場(物理入門コース　3)	長岡洋介著
24	49	4	力学(物理入門コース　1)	戸田盛和著
24	49	6	基礎有機化学	H.ハート著
24	49	10	微分	上見練太郎[ほか]共著
28	48	10	基礎物理化学　上	Walter J. Moore著
29	47	11	基礎物理化学　下	Walter J. Moore著
29	47	5	力学の考え方(物理の考え方　1)	砂川重信著
29	47	4	なっとくする熱力学	都筑卓司著
32	46	5	なっとくする量子力学	都筑卓司著
32	46	1	ハリー・ポッターと秘密の部屋	J.K.ローリング作
34	45	4	微分積分(理工系の数学入門　1)	和達三樹著
34	45	4	例解量子力学演習(物理入門コース　3)	中嶋貞雄,吉岡大二郎著
34	45	3	すぐわかる線形代数	石村園子著
34	45	8	線型代数学(数学選書　1)	佐武一郎著
38	43	4	熱力学(物理テキストシリーズ　3)	横田伊佐秋著
38	43	3	細胞生物学(図解生物科学講座　7)	遠山益編著
40	42	5	フェルミ熱力学	エンリコ・フェルミ著
41	40	1	ハリー・ポッターと賢者の石	J.K.ローリング作
42	39	3	入門講義倫理学の視座(Sekaishiso seminar)	新田孝彦著
42	39	6	分析化学(基礎化学選書　2)	長島弘三,
42	39	2	ノルウェイの森　上	村上春樹著
45	38	2	ノルウェイの森　下	村上春樹著
45	38	3	ヴォート基礎生化学	D.Voet, J.G. Voet, C.W. Pratt著
45	38	9	大学の基礎化学	喜多英明,市川和彦共著
45	38	5	線形代数	山原英男,吉松屋四郎共著
49	37	10	物理化学　上	P.W. Atkins[著]
49	37	3	固体物理学入門　上	Charles Kittel[著]
49	37	3	わかりやすい遺伝子工学	半田宏,永井和夫,島本功共著
49	37	6	原子と量子(物理入門コース　5)	中嶋貞雄著
49	37	3	電気化学の基礎:電気化学を志	喜多英明,魚崎浩平著

会議 (14.3.1～14.6.30)

【学　　内】

◎図書館委員会

○第188回〈3月8日（金)〉

議　題

1　学術研究コンテンツの整備に関する検討小委員会報告について

2　平成15年度歳出概算要求事項及び平成14年度営繕工事要求事項について

3　その他

報告事項

その他

◎北分館委員会

○第136回〈6月11日（火)〉

議　題

1　平成13年度北分館図書費決算について

2　平成14年度事業計画（分館関連事項)

3　その他

報告事項

1　「平成14年度北分館概要」について

2　平成13年度事業報告（分館関連事項)

3　その他

◎学術研究コンテンツ小委員会

○第1回〈5月29日（水)〉，第2回〈6月12日（水)〉

【学　　外】

◎国立大学図書館協議会

○理事会等〈5月22日（水）～23日（木)〉(東京大学)

○総会〈6月26日（水）～27日（木)〉(鳥取大学)

◎平成14年度国立大学附属図書館事務部課長会議〈5月21日（火)〉(学術総合センター)

◎第34回国立大学図書館協議会北海道地区協議会〈4月25日（木)〉(帯広畜産大学)

◎北海道地区大学図書館協議会

○第44回図書館職員研究集会企画委員会（北海道大学)

第1回〈4月17日（水)〉，第2回〈5月15日（水)〉

○幹事館会議（北海道大学)

第1回〈2月26日（火)〉，第2回〈6月11日（火〉

図書館委員会委員名簿

平成14年5月1日

区分	職名	氏名	電話	任期	備考
	館長	井上芳郎	2963	13. 5. 1～15. 4.30	
	副館長	吉野悦雄	2790	14. 4. 1～15. 4.30	
文学研究科	教授	関孝敏	4154	13. 4. 1～15. 3.31	分館委員
教育学研究科	教授	所伸一	3101	14. 4. 1～16. 3.31	分館委員
法学研究科	教授	笹田栄司	3141	14. 4. 1～16. 3.31	
経済学研究科	教授	岡部洋實	2779	14. 1. 1～15.12.31	
理学研究科	助教授	菊地武	2732	13. 4. 1～15. 3.31	分館委員
医学研究科	教授	皆川知紀	5073	14. 4. 1～16. 3.31	分館委員
医学部附属病院	教授	前沢政次	7005	12. 9.16～14. 9.15	
歯学研究科	教授	小口春久	4290	14. 4. 1～16. 3.31	
薬学研究科	教授	稲垣冬彦	3975	13. 6. 1～15. 5.31	分館委員
工学研究科	教授	長谷川和義	6187	13.10. 1～15. 9.30	
農学研究科	教授	増田税	2807	13. 4. 1～15. 3.31	
獣医学研究科	教授	伊藤茂男	5219	13. 3. 1～15. 2.28	
水産科学研究科	教授	吉水守	8810	14. 5. 1～16. 4.30	
地球環境科学研究科	教授	田中俊逸	2219	14. 4. 1～16. 3.31	
国際広報メディア研究科	助教授	橋本聡	5391	14. 4. 1～16. 3.31	
言語文化部	助教授	大野公裕	5384	13. 4. 1～15. 3.31	分館委員
低温科学研究所	助教授	山田知充	5485	13. 4. 1～15. 3.31	
電子科学研究所	教授	田村守	2410	12.10. 1～14. 9.30	
遺伝子病制御研究所	教授	葛巻暹	5020	14. 4. 1～16. 3.31	
触媒化学研究センター	教授	大谷文章	3673	13. 4. 1～15. 3.31	
スラブ研究センター	教授	井上紘一	3158	14. 4. 1～16. 3.31	
高等教育機能開発総合センター	教授	町井輝久	5306	12. 9.18～14. 9.17	分館委員
医療技術短期大学部	教授	中村仁志夫	3385	13. 4. 1～15. 3.31	

北分館委員会委員名簿

平成14年4月1日現在

区分	職名	氏名	電話	任期	備考
	分館長	吉野悦雄	2790	13. 4. 1～15. 4.30	
文学研究科	教授	関孝敏	4154	13. 4. 1～15. 3.31	第2号委員(文系)
教育学研究科	教授	所伸一	3101	14. 4. 1～15. 3.31	第2号委員(文系)
言語文化部	助教授	大野公裕	5384	14. 4. 1～15. 3.31	第2号委員(文系)
理学研究科	助教授	菊地武	2732	13. 4. 1～15. 3.31	第2号委員(理系)
医学研究科	教授	皆川知紀	5073	14. 4. 1～16. 3.31	第2号委員(理系)
薬学研究科	教授	稲垣冬彦	3975	14. 4. 1～15. 3.31	第2号委員(理系)
高等教育機能開発総合センター	教授	町井輝久	5306	12. 9.18～14. 9.17	第3号委員
経済学研究科	教授	小野浩	2962	14. 4. 1～16. 3.31	第3号委員
獣医学研究科	教授	梅村孝司	5191	14. 4. 1～15. 3.31	第3号委員

人事往来

【平成14年4月1日付け異動】

〔転入・配置換〕

佐藤正勝　附属図書館事務部長（旭川医科大学総務部長）
山田幸彦　附属図書館情報サービス課長（新潟大学附属図書館情報管理課長）
小川祐司　附属図書館情報管理課会計掛長（大型計算機センター会計掛長）
土田健治　附属図書館情報管理課図書受入掛長（旭川工業高等専門学校庶務課図書係長）
相原雪乃　附属図書館情報管理課雑誌受入掛長（国立情報学研究所国際・研究協力部成果普及課専門研修係長）
髙崎仁雄　附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛長（医学研究科・医学部図書整理掛長）
鎌田由紀子　医学研究科・医学部図書整理掛長（大学院地球環境科学研究科図書掛長）
長井伸一　歯学研究科・歯学部総務課図書掛長（函館工業高等専門学校庶務課図書係長）
春名克彦　工学研究科・工学部総務課図書整理掛長（附属図書館情報管理課図書受入掛長）
山田達雄　大学院地球環境科学研究科図書掛長（附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛長）
中村陽　附属図書館情報管理課図書受入掛（附属図書館情報システム課システム管理掛）
加藤彰　附属図書館情報サービス課資料サービス掛（水産科学研究科・水産学部図書掛）
小林流美子　附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛（農学研究科・農学部図書整理掛）
村上豊　附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛（附属図書館情報サービス課資料サービス掛）
村田邦恵　附属図書館情報システム課目録情報掛（附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛）
三浦千穂　附属図書館情報システム課目録情報掛（経済学研究科・経済学部図書掛）
手島慶子　文学研究科・文学部図書掛（医学研究科・医学部図書整理掛）
東朋子　文学研究科・文学部図書掛（農学研究科・農学部図書閲覧掛）
池田幸代　教育学研究科・教育学部図書掛（釧路工業高等専門学校庶務課情報資料係）
平松麗子　経済学研究科・経済学部図書掛（教育学研究科・教育学部図書掛）
坂崎春子　理学研究科・理学部図書掛（附属図書館情報システム課目録情報掛）
首藤佳子　医学研究科・医学部図書整理掛（附属図書館情報管理課図書受入掛）
伊藤啓子　工学研究科・工学部総務課図書閲覧掛（農学研究科・農学部図書閲覧掛）
山家尚子　工学研究科・工学部総務課図書閲覧掛（文学研究科・文学部図書掛）
梶原茂寿　工学研究科・工学部総務課図書整理掛（旭川医科大学教務部図書課情報サービス係）
岩田慈子　工学研究科・工学部総務課図書整理掛（理学研究科・理学部図書掛）
細井真弓美　農学研究科・農学部図書閲覧掛（工学研究科・工学部総務課図書閲覧掛）
佐藤信世　農学研究科・農学部図書閲覧掛（低温科学研究所第三研究協力室）
坪田千江子　医療技術短期大学部学務掛（工学研究科・工学部総務課図書閲覧掛）

〔採用〕

濱　　恭　子　農学研究科・農学部図書整理掛

小　林　泰　名　水産科学研究科・水産学部図書掛

〔転出〕

坂　上　光　明　東北大学附属図書館事務部長（附属図書館事務部長）

藤　島　　隆　徳島大学附属図書館事務部長（附属図書館情報サービス課長）

片　山　俊　治　群馬大学附属図書館情報サービス課長（附属図書館情報管理課雑誌受入掛長）

杉　田　茂　樹　国立情報学研究所開発事業部コンテンツ課文字情報係長（工学研究科・工学部総務課図書整理掛）

嶺　野　智　康　旭川医科大学教務部図書課情報サービス係（附属図書館情報システム課目録情報掛）

〔再任用〕

久　田　　稔　経理部第一契約課付（第三契約担当）（附属図書館情報管理課会計掛長）

土　田　京　子　学務部教務課全学教育支援室（学務部教務課全学教育支援室）

佐　口　英　二　工学研究科・工学部総務課情報エレクトロニクス系専攻図書室（工学研究科・工学部総務課図書整理掛長）

【平成14年3月31日付け異動】

〔定年退職〕

久　田　　稔　附属図書館情報管理課会計掛長

黒　田　泰　行　歯学研究科・歯学部総務課図書掛長

佐　口　英　二　工学研究科・工学部総務課図書整理掛長

土　田　京　子　学務部教務課全学教育支援室

池　内　斐　子　文学研究科・文学部図書掛

落　合　典　子　工学研究科・工学部総務課図書整理掛

櫻　　洋　子　医療技術短期大学部学務掛

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん)　**第113号**　平成14年7月31日発行

〈編　集〉「楡蔭」編集委員会

〈発　行〉北海道大学附属図書館　〒060-0808　札幌市北区北8条西5丁目
TEL：011-706-2967　FAX：011-747-2855
ホームページ　http://www.lib.hokudai.ac.jp

附属図書館本館・北分館・部局図書室の開館(室)時間

部局名		内線	平日 開室時間	土曜日・日曜日・休日 開室時間	備考
附属図書館	本館	3956-7	9:00～22:00	9:30～17:00	休館日:12月28日から1月4日 学生休業期間中は,17:00で閉館です。 各室の開室時間は問い合わせのこと
	北分館	5575	9:00～22:00	9:30～17:00	
文学研究科・文学部		3061	9:00～17:00	−	昼休みは,カウンターを閉じます。
教育学研究科・教育学部		3086	9:00～17:00	−	昼休みは,カウンターを閉じます。
経済学研究科・経済学部		3167	9:00～17:00	−	
理学研究科・理学部		3808	9:00～17:00	−	
医学研究科・医学部		5016	9:00～17:00 (24時間)	(24時間)	平日9:00～22:00以外は,自動入退館管理システムによる開館であり,利用対象者は,医学部の学部学生以上及び医学部附属病院の教職員です。
歯学研究科・歯学部		4210	9:00～20:00	10:00～17:00 (土曜日のみ)	
薬学研究科・薬学部		3914	9:00～17:00 (24時間)	(24時間)	平日の9:00～17:00以外は,オートドアロックカード方式による開室であり,利用は薬学部の教職員,学生(4年生以上)に限ります。
工学研究科・工学部		6136 6160	9:00～20:00	−	学生休業期間中は,17:00で閉室(夜間は閉室)です。
農学研究科・農学部		4122	9:00～20:00	−	学生休業期間中は,17:00で閉室(夜間は閉室)です。
獣医学研究科・獣医学部		5179	9:00～17:00 (17:00～21:00)	(9:00～21:00) (土曜日のみ)	平日の9:00～17:00以外は,鍵貸出し方式による開室であり,利用は獣医学部の教職員,学生に限ります。
水産科学研究科・水産学部		5513	9:00～18:00	−	学生休業期間中は,17:00で閉室です。
地球環境科学研究科		2208	9:00～17:00	−	平日の9:00～17:00以外は,磁気カードによる開室であり,利用は当研究科構成員に限ります。昼休みは,カウンターを閉じます。
学務部 (全学教育支援室人文辞書資料室)		5417	9:00～17:00	−	
低温科学研究所		5449	9:00～17:00 (24時間)	(24時間)	平日の9:00～17:00以外は,磁気カードによる開室であり,利用は当研究所教官に限ります。昼休みは,カウンターを閉じます。
電子科学研究所		3363	9:00～17:00 (24時間)	(24時間)	平日の9:00～17:00以外は,カードロックシステムを採用。対象は,電子科学研究所の教職員,学生等に限ります。
遺伝子病制御研究所		5516	9:00～17:00	−	
触媒化学研究センター		2905	9:00～17:00	−	
スラブ研究センター		3310	9:00～17:00	−	昼休み(12:00～13:00)は,閉室です。
医療技術短期大学部		3319	9:00～17:00 (24時間)	(24時間)	昼休み(12:30～13:30)は,カウンターを閉じます。 平日の9:00～17:00以外は,オートドアロックカード方式による開室であり,利用は医療短期大学部の学生(平日17:00～19:00),教官(24時間)に限ります。